

平成25年度 鴨川市教育行政評価報告書（案）

2 生涯学習の充実

基本方針	<p>家庭や地域での子どもの体験教室やキャリア学習、生活を豊かにする地域クラブ活動などを通して、市民が趣味やスポーツなどに親しみ、様々な問題解決や自己の希望の実現に向け、いきいきと学ぶことのできる「市民一人ひとりが輝く生涯学習のまちづくり」を進めます。</p> <p>また、講師から受講者へと、一方的・固定的に学習活動を進めるのではなく、市民同士がお互い尊重し合い、教え合い、学び合う生涯学習活動の充実を図ります。</p> <p>さらに、大学との連携により学習機会の拡充を図るとともに、高齢化と若者の地域離れが進む中、市民が各地域の自然や歴史、文化などを活かし、趣味やスポーツ、地域学習などを通して、お互いに交流し、活動する魅力あるコミュニティづくりを促進します。</p>
------	--

○多彩な学習活動の促進

事業等名	公民館事業の充実
概要	<p>魅力ある公民館教室の開催、サークル・クラブ活動の育成、公民館だよりの発行などにより、高齢化の進行等に伴う新たなニーズにも対応した公民館事業の充実を図ります。</p> <p>また、公民館の管理のあり方等を検討し、利便性の向上に努めます。</p>
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 魅力ある公民館教室とするために、歴史の講座・趣味的な講座・ハイキング・高齢者学級・家庭教育学級など多分野にわたって実施しています。また、参加者が地域の限定なく、どの公民館の講座にも申し込みができるように配慮しています。</p> <p>主催事業 82講座(全公民館合計) 定期登録団体 190団体(全公民館合計)</p> <p>【成果と課題】 ◎参加者が希望する講座に参加できるように、その都度受講者を募ることで、新規の参加者も増えてきています。 ◎定期登録団体には、社会教育団体であることを意識づけるための団体長会議を行うことで、活動におけるモラルの向上と活動についての共通理解を図っています。 ◎年度当初に公民館の運営基本方針と重点目標を生涯学習課が定め、それに基づいて主催事業を企画するなど、新たな事業の掘り起こしもされてきたところです。 ◎サークル利用者の減少・高齢化が進み、活動を維持できなくなりつつあるので、新規加入者の促進を図るため初歩の講座を開催し、既存のサークルに参加しやすい裾野を広げる取り組みを行いました。 ◆自分達で運営し、自分達で学習する必要性を認識し、継続したサークル活動が定着してきてはいるものの、講師頼みのサークルも多少見られるため、支援する必要があります。</p>

事業等名	地域学習・ボランティア活動の支援
概要	文化施設ボランティアの活用及び育成と生涯学習ボランティア(体験活動支援)の募集を図るとともに、人材バンクとして整備し、地域学習等を支援します。
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 市民に広く親しまれる施設づくりを目指し、平成21年度から文化施設ボランティアを郷土資料館及び市立図書館に導入しています。各施設の自主事業はもとより、館内整理等でボランティアとして活動をしていただくとともに、研修などを通じてボランティアのスキルアップを図っています。</p> <p>また、昨年度から、生涯学習人材バンクの整備に取り組み、ボランティアによる市民団体の学習活動支援を推進し、市民が『いつでも、どこでも、だれでも』学べる学習環境づくりと、市民同士が共に学びあう『人と人とのつながり』を培うことに努めています。</p> <p>【成果と課題】 ◎平成25年度の文化施設ボランティアは48名の登録があり、その数は若干の増加はあるものの、更新登録者も定着してきており登録者数は安定しています。このことから、各施設ともに活動内容が広がり、自主事業の多様化や、来館者数の増加など、施設の活性化につながっています。</p> <p>◎生涯学習人材バンク登録のボランティアは現在19名の登録があり、市内の小・中学校や土曜スクール、通学合宿などで、学習指導や支援を行う活動が広まりつつあり、そのリクエスト数も増えてきています。</p> <p>◆文化施設ボランティアについては、各施設のボランティア活用計画に基づき活動しています。登録期間が1年登録(更新)であることから、登録しやすい反面、登録人数の大幅な増加につながらない面があります。そこで、ボランティア登録者が充実感を味わえ、積極的に活動へ参加できるような取り組みを図っていく必要があります。</p> <p>◆生涯学習人材バンク事業は、2年目になりますが登録ボランティア数は少ない状況です。より広範囲かつ定期的な募集の呼びかけと、登録ボランティアの具体的な指導内容資料の作成など、当該人材バンクの周知を図る必要があります。また、登録ボランティアの活動が事業的に個々となることから、ボランティア間の交流を図る機会を設けるなどの工夫が必要と考えます。</p>

事業等名	児童・生徒の体験活動事業の推進
概要	<p>体験活動をする社会教育関係団体の支援、職場体験や中学校通学合宿事業など、様々な体験活動と交流学習機会の充実を図り、子どもの生きる力を育みます。</p>
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 放課後子ども教室事業として、今まで曾呂地区で実施されていた「曾呂わくわく隊」・「西条土曜スクール」・「田原土曜スクール」・「江見土曜スクール」・「天津小湊土曜スクール」に加え、平成25年度は「太海土曜スクール」を立ち上げました。 また、キャリア教育の一環として、市内の中学2年生全員を対象に、「職場体験学習」を実施し、将来の仕事について学習・体験する機会としています。昨年度に引き続き中学1年生を対象に、青年会議所と連携して市内3中学校それぞれで、「青少年未来プロジェクト ～情熱ハローワーク～」を実施し、地元で働く人・働くことへの理解を深め、職業選択を考えるきっかけづくりとしています。</p> <p>【成果と課題】 ◎放課後子ども教室を通して、地域の方が、積極的に子どもたちの為に協力してくださる体制が整ってきました。子どもたちも地域の方と関わる中で、自然と地域を愛する気持ちや体験活動に積極的に参加する姿勢が生まれてきています。 ◎学校と地域が連携し、子どもたちが職場体験活動やボランティア活動に充実して取り組めるよう推進しています。 ◎親元を離れて自分たちで生活する通学合宿を通して、自立心や協調性を養うことにつながっています。</p> <p>◆放課後子ども教室事業を支える地域ボランティアの確保と、運営して下さるコーディネーターの方が実施計画を立てやすくするための情報提供や調整を行っていかねばならないと思います。各土曜スクールの横の繋がりも進めていけたらと考えています。</p> <p>◆学校と事業所における職場体験学習の実施希望時期の調整と、5日間の長期受け入れが可能な事業所の確保について改善を図っていく予定です。</p> <p>◆通学合宿事業実施にあたっては、開催時期を市主催の行事や学校行事に配慮していく必要があります。また、健康面に関しては、学校教育活動に支障をきたさないように睡眠時間の確保等、児童の健康管理に十分配慮していく必要があります。</p>

事業等名	家庭教育の支援
概要	<p>家庭教育学級の開催、家庭教育指導員による家庭教育指導や相談事業の実施をするとともに、家庭教育学級未実施地区開設準備を行い子育て学習会への支援をし、家庭の教育力の強化を図ります。</p>
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 家庭教育学級は、25年度中に公民館と幼稚園が連携をとり、市内全幼稚園9園で各園2回以上、のべ19回開催されました。また、全地区を対象とした家庭教育講演会を実施し、参加者の反応は概ね好評でした。 家庭教育相談室は、毎週水・木・金曜日に天津小湊公民館内の相談室で委嘱された2名の家庭教育指導員が対応しています。様々な家庭教育の問題に関して、電話相談や面接相談等を受けています。25年度相談件数は、のべ141件でした。また、「母の和だより」を毎月発行し、関係者に配布しています。 子育て学習会は、25年度中に4つの会で開催され、のべ41回でした。</p> <p>【成果と課題】 ◎家庭教育相談室に寄せられる相談が年々増え、また、幅広い年代・職種から多岐にわたる内容の相談があることから、相談室の必要性が理解され、地域に相談室が浸透してきていることがうかがえます。 ◎幼稚園保護者と公民館が積極的に活動し、さらに社会教育指導員も相談に加わることで、体験型の親子交流活動や保護者の語り合い・交流活動が多く実施されました。また、保護者側の組織が事前調査を実施するなど参加型の活動がみられ、より充実した家庭教育学級となりました。 ◎家庭教育学級の取り組みを他の年代層に拡充するため、オーシャンズ若潮明社と共催して家庭教育講演会を開催しました。その際、子育てサークルや幼稚園・保育園・学校の協力を得て実施したことで、子育て世代や孫育て世代の参加者が多数あり、とても好評でした。 ◆家庭教育学級を全地区で継続的に開催するために、社会教育の専門職員が公民館長と連携をとり、家庭教育学級を開催する幼稚園の役員会に参加するなど、企画の段階から関わり、助言できる体制をさらに整えていく必要があります。 ◆江見地区、天津小湊地区の幼稚園には家庭教育に係る保護者組織がないため、保護者の意見を反映させて取り組むためにも、幼稚園と協力して保護者の組織作りを進める必要があります。</p>

○青少年の健全育成

事業等名	啓発活動の促進
概要	<p>青少年健全育成大会や青少年育成指導者研修会の開催、小・中学生による青少年健全育成に関する作文等の発表会や映画会の開催など、多様な団体との連携を強化し、青少年健全育成に関する啓発・広報活動の充実を図ります。</p>
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 青少年問題に対する様々な取り組みや方策を探り、地域住民の意識を高め青少年健全育成の推進を図る目的として、毎年青少年健全育成推進大会及び青少年育成指導者研修会を開催しています。青少年育成鴨川市民会議を中心とし、育成会・相談員・PTAなど各種団体の参加による研修会は、青少年健全育成に関する様々な課題に関する講話や啓発活動を行っています。</p> <p>【成果と課題】 ◎今回は「ネットパトロールの現状」と題して講話があり、参加者からは、「ネットパトロールの現状がよくわかった。」「スマートフォンは便利な機械だけど危険と背中合わせなので、帰ったら子どもと話してみよう。」などの意見が聞かれ、大変好評でした。 ◆今後は、青少年育成指導者等を対象とするばかりでなく、土曜スクール等の保護者を対象にする啓発活動等を実施するなど、より多くの関係者を対象とした取り組みを検討する必要があります。</p>

事業等名	青少年育成団体活動の活性化及び地域との連携強化
概要	<p>青少年育成団体や学校・警察連絡協議会などの組織・団体、地域住民と連携しながら、非行防止パトロール等を実施、防犯、非行防止親子映画会を開催するなど、地域が一体となった青少年の健全育成に努めます。</p> <p>また、青少年育成団体などの指導者の交流・連携を強化しながら、球技大会やウォークラリー、ジュニアリーダー講習会、小学生通学合宿、小学生などの土・日曜日の有効活用を図るための放課後子ども教室・土曜スクールなど、多彩な青少年活動の展開を促進します。</p>
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成鴨川市民会議を中心に、学校や警察の連携により年数回の防犯パトロールを実施しています。また、青少年相談員の夏季パトロールや各地区でのボランティアのパトロールも実施しています。 ・青少年育成団体の指導者の交流や連携を図りながら、球技大会や各種大会を開催しています。 ・放課後子ども教室事業として、今まで実施されていた5地区に加え、新たに「太海土曜スクール」を立ち上げて実施し、学年の異なる友達と一緒に、学習やさまざまな体験活動を地域のボランティアの協力のもとに行っています。 ・市内の小学5・6年生を対象とした通学合宿を実施し、子どもたちの自立心・協調性を育んだり、学力の向上を図ったりする機会としています。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎防犯パトロールは、警察署と市民会議とが連携を密にして活動を実施しています。 ◎放課後子ども教室を通して、地域の方が、積極的に子どもたちの為に協力してくださる体制が整ってきました。子どもたちも地域の方と関わる中で、自然と地域を愛する気持ちや体験活動に積極的に参加する姿勢が生まれてきています。 ◎通学合宿では、親元を離れて自分たちで生活することを通して、自立心や協調性を養ったり、地域学習を通して、自分たちの地域のよさを再確認したり、新しい発見の場となっています。 ◆今後も青少年育成鴨川市民会議を中心に警察及び各種団体との連携によりパトロールを継続していく必要があります。 ◆放課後子ども教室事業を支える地域ボランティアの確保と、運営してくださるコーディネーターの方が実施計画を立てやすくするための情報提供や調整を行っていかねばならないと思います。各土曜スクールの横の繋がりも進めていけたらと考えています。 ◆通学合宿では、学校行事等との日程調整を図り、参加児童の健康面あるいは学校への負担軽減について配慮が必要となります。

○市民文化の振興

事業等名	大学等との連携による特色ある生涯学習プログラムの充実
概要	市内に立地する大学関連教育研究施設と連携し、講演会や実験教室などを行います。
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 大学関連教育研究施設と連携した事業は、平成4年から城西国際大学の公開講座、平成9年からは早稲田大学による著名な教授による講演会や展示会、おもしろ科学実験教室は平成10年から開催されました。 今年度、「公開講座」では『時間旅行と海外旅行』をテーマに全2回の講義を実施、夏休みの一大イベントとなった「おもしろ科学実験教室」では、募集定員188名を大きく上回る288名の応募がありました。早稲田大学交流事業「講演会」では、「地域の防災力を高めるために」をテーマに、社会学の観点から地域防災について講演をいただきました。また、東洋大学交流事業「講演会」では、「免疫のしくみ～免疫力を維持して健康に生きるコツ～」をテーマに、健康を維持する上で大切な免疫力について、各種のデータや資料を使いながらわかりやすく説明をいただきました。 その他、市民が直接キャンパスを訪れ、大学が有する歴史・文化資産を見学する「東京大学キャンパスツアー」や「早稲田大学キャンパスツアー」、自然体験学習を目的とした東京大学千葉演習林での「野鳥の巣箱をかけよう!」、千葉大学海洋バイオシステム研究センターでの「磯の生き物観察会」など多彩な事業を実施し、多くの市民が参加しています。</p> <p>【成果と課題】 ◎大学の持つ知的資産や文化的資産を本市をはじめ周辺地域に積極的に還元しています。 ◎各大学が市民と交流を深めるとともに、市民文化の向上、生涯学習の充実に役立っています。 ◎市民が大学を身近に感じ大学への理解の促進につながっています。 ◆単発的な事業が主であるため、市民のニーズを把握しながら継続的に学べる事業が求められます。 ◆公民館、図書館、郷土資料館といった社会教育施設と連携し、各施設の活性化にも繋がるような事業が求められます。 ◆各事業がマンネリ化しないよう注意しつつ、内容を見直しながら今後も継続して事業を実施する予定です。</p>

事業等名	生涯学習施設の整備
概要	老朽化の状況に応じ、公民館などの計画的な施設の改修、修繕を行うとともに、視聴覚教材等の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 公民館を始めとする各生涯学習施設は、経年による老朽化により故障箇所が増えているのが現状です。故障箇所の確認をし、利用者の安全性を配慮しながら、予算の範囲内で修繕・改修を行ってきました。特に平成25年度は、田原公民館2階講堂の空調機を更新するとともに、利用者が安心して使用できるよう、天津小湊公民館の耐震診断及び主基公民館などの消防設備の修繕を行いました。また、視聴覚機材についての新規購入は予算の範囲内でしかできないので、現況の教材をPRしながら利用していきます。</p> <p>【成果と課題】 ◎耐震診断や消防設備の修繕など、利用者の安全性を考慮した整備を行いました。 ◎各施設とも故障中の設備や利用者が不便をきたしている箇所については、緊急性等を考慮し優先順位をつけて修理を進めてきました。 ◆今後も予算の範囲で、利用者の安全性を考慮しながら修繕していくことを考えています。 ◆視聴覚機材は、現在でも需要があるため、現在残っている教材・機材は利用したいと考えます。</p>

事業等名	読書・学習環境の充実
概要	多様な取り組みを推進するとともに、遠隔地利用者の利便性向上のため、公民館等社会教育施設との連携強化を図り、読書人口の増加に努めます。
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 平成23年度より遠隔地域の公民館へ図書館分室の開設を行ってきました。曾呂、江見、大山に続き、7月には天津小湊公民館を開設し、蔵書冊数は全体で約8,500冊となりました。定期的な図書の入替えや新刊図書の購入などにより、地域に根付いた図書館分室の運営を実施しています。また、市内の小学校からの見学や職場体験の受入れ、土曜スクールから依頼を受け、図書館訪問や地域を学ぶ「子どもふるさと講座」の実施など、各学校との連携を強化し、図書館利用の促進と行事への参加人数の増加を図っています。</p> <p>【成果と課題】 ◎分室の利用については登録者は全体で311名となり昨年度より1.9%の増、貸出冊数は開設以来2,760冊となり、昨年度より1.8%の増ということから、利用の増加がみられます。また、今年度市内の全小学校から見学や体験の依頼があり、図書館利用についての学習を経て、家族や友人同士での利用も増加している様子が見えました。 ◆今後図書館分室については、定期的な図書の入替えを進めながら、読み聞かせ等の行事を行うなど、地域の特性を活かした分室としての機能の充実を図るとともに、各学校や土曜スクールとの連携を更に強化し、図書館行事への参加についても積極的な呼びかけをするなど、図書館利用の増加を図っていく必要があります。</p>

事業等名	図書資料の充実
概要	中高生や高齢者向け資料、郷土資料をはじめとして、図書資料等の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 近年利用率の低い中高生にどうサービスを提供するかが喫緊の課題となっていました。23年度に実施した中学生の読書実態調査により明らかとなった読書の質に関する問題の対策として、市内中学生への朝読書用図書配本事業を10月より開始しました。各クラスへ30～50冊の図書を配布し、図書の管理は学級担任と図書委員で行っています。学期ごとに図書の入れ替えをするため、推薦する図書を計画的に購入し、読書の質の向上を目指しています。また、地域の特性を踏まえた資料の収集や、時事的情報を提供するための資料の購入を図っています。郷土資料については、複数冊の購入や入手不可能な資料の複写製本をするなどして、資料の充実に努めています。</p> <p>【成果と課題】 ◎「配本された図書を利用する生徒が増えた」「他のクラスの図書を気にする生徒の様子が見えた」など、学校図書館担当者連絡会議において成果が報告されました。また、利用率が高く破損の著しい図書の買替えやボランティアを活用した図書の補修を進め、図書資料の収集・整備に努めた結果、蔵書冊数が約90,000冊と大幅に増え、円滑な利用がなされるようになりました。</p> <p>◆今後更に中学校との情報交換を密にし、中学生朝読書用図書配本事業の充実を図っていきます。また、公民館図書館分室4館の地域性を活かした図書の充実を図り、遠隔地域の住民にも平等なサービスの提供ができるよう努めていく必要があります。</p>

事業等名	地域文化クラブ活動の促進
概要	市民が主体的に様々な地域文化クラブを結成し、充実したクラブライフを実現できるよう、支援の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 各文化団体の活動の成果を発表する機会として、毎年秋に鴨川市文化祭と市民音楽祭を開催しています。</p> <p>【成果と課題】 ◎文化協会の書道部門では、文化団体の書道作品だけでなく、市内小学校及び市内高校生の作品も展示、また、写真部門でも、市内の高校生の写真を展示しており、作品数が増えています。子どもたちの作品を展示することで、家族連れや高校生の見学者が定着しました。</p> <p>◎市民音楽祭では、第40回の節目の年であるため、記念行事を開催し、千葉ニューフィルハーモニーによるピアノトリオとソプラノ独唱公演が行われました。</p> <p>◆文化協会は、会員の高齢化により、会員数が減少しているため、各部門で個々の活動を広報に掲載してPRし、会員加入の呼びかけや積極的な周知が必要です。</p> <p>◆市民音楽祭は、年度により入場者の増減がありますので、来場者に楽しんでもらえるよう、新しい試みをしていく努力が必要です。</p>

○歴史・文化の保存と活用

事業等名	歴史・文化の発掘と保存・展示
概要	<p>未だに明らかにされていない地域の歴史や文化の調査・保存に努めるとともに、郷土資料館や文化財センターでの展示、市史の編さんに努めます。</p>
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 市内にはまだまだ明らかにされていない歴史や文化が残っている状況の中で、寺社の立入調査、古文書の解読などを所有者や地元住民の理解と協力を得ながら実施しています。その成果を「伊八」や「嶺岡牧」、ミニ収蔵展などの展示、地域ごとの歴史を記したあゆみの発刊事業に活用するなど、より多くの市民に鴨川市域の歴史や文化の重要性を理解してもらい、さらなる調査・保存に向けての理解や情報提供などに努めています。</p> <p>【成果と課題】 ◎企画展として「波濤を越えて～伊八、海を渡る～」展を開催し、鴨川が誇る郷土の名工・伊八の事績を広く内外にアピールし、多くの入館者を記録しました。また、60年ぶりに開催された巖島神社弁財天本開帳にあわせて開催した出張写真展「弁天様の御開帳」展では、市民ギャラリーでの展示のほか、当日は御開帳会場まで出張展示し、多くの来場者を記録しました。 ◎文部科学省委託事業「公民館等を活用した社会教育活性化支援プログラム」を活用し、早稲田大学の協力のもと、考古学セミナー5回、講演会1回、企画展「古代エジプトの世界ーエジプト考古学の魅力ー」を開催し、歴史的資源の掘り起こしと考古学教育を実施しました。 ◎郷土資料館や市史編さん委員会が管理・収蔵する資料を有効に活用する意味も含めて、収蔵資料展1回、ミニ収蔵展を2回開催し、市内で埋もれていた歴史の再発見を進めています。 ◎あゆみシリーズ『東条のあゆみ』を発刊し、現在『吉尾のあゆみ』の製作を進めています。</p> <p>◆市内には、埋もれている歴史資料がまだまだあると考えられ、近年、市民からの情報提供や、調査依頼の件数が増加しつつあります。地域の関係者や所有者との信頼関係を築くことを念頭において調査を進めることが課題となっています。さらにその調査結果をどのような形で市民に還元していくかが重要な課題となります。</p>

事業等名	歴史・文化の学習と活用
概要	<p>伝統文化や文化遺産などの学習・体験機会の充実を図るとともに、郷土を愛する心の醸成や市民文化の向上のため、今後のまちづくりや観光・交流などに積極的な活用を図ります。</p>
実施状況・成果と課題	<p>【実施状況】 郷土資料館、市民ギャラリーでは、様々な体験講座を実施し、また、公民館、学校などでは職員が講師となって、歴史・文化の普及に努めています。さらには、観光・商工関連団体との連絡を密にし、町づくりや観光における歴史・文化の情報提供を行っています。</p> <p>【成果と課題】 ◎一般社団法人波の伊八鴨川まちづくり塾と協力しながら活動しました。 ◎お飾り教室などの大人向け講座、子どもふるさと講座などの子ども向け講座を継続的に実施しました。 ◎小学校、公民館などへ講師を40回以上派遣し、1500人以上の方が講義を受けています。 ◎あゆみシリーズを基本とした解説講座を開催し、鴨川市内の歴史の理解・再認識に努めました。 ◎郷土の歴史に対する理解を深めるため、小学校6年生向けの社会科副読本を作成しました。 ◆今後はさらに、幅広い内容に関する要望が寄せられる可能性もあるので、そのような要望に応えるために、職員の知識を深め、経験を広げることが求められます。また、豊富な人材の活用と育成にも努めることが必要となります。</p>

第 49 回安房地区社会教育振興大会開催要項（案）

- 1・趣旨 生涯学習の時代を迎え、地域住民の社会教育に寄せる期待は増大しつつあり、社会教育の果たす役割がますます重要になってきている。
この時期にあたり、社会教育関係者が一堂に会し、社会教育の今日的な課題の解決を目指すとともに、地域の各種団体等の学習成果の発表や活動の紹介等を通して、今後の安房地区における社会教育の一層の振興を図る。
- 2・主催 安房地区社会教育委員連絡協議会・安房地区公民館連絡協議会
- 3・後援 千葉県社会教育委員連絡協議会
- 4・期日 平成 26 年 11 月 8 日（土）
- 5・会場 鴨川市：千葉県立長狭高等学校文化ホール
鴨川市横渚 100 番地 電話 04-7092-1225

6・日程と内容

現在の予定

午後1:00	1:30	2:10	2:40	3:10	3:30
受付	開会行事 ・功労者表彰 ・決議文採択	実践発表 ひまわりキッズ&フルール ※平成25年度「ライトブルー少年賞」受賞団体	アトラクション 里舞	閉会行事	

- 7・内容 ①実践発表【午後 2:10～2:40】
テーマ ●●●●●●●●
発表者 「ひまわりキッズ&フルール」 代表者 □□ □□
- ②アトラクション【午後 2:40～3:10】
里舞
- 8・参加対象 教育委員、社会教育委員、公民館長、公民館関係職員、図書館長、図書館関係職員、社会教育担当者、社会教育・家庭教育指導員、社会教育関係団体構成員、幼小中学校長、幼小中学校関係職員及び P T A 関係者、社会教育に関心のある方 など

市社会教育委員皆様の積極的な参加及び関係者へのお声かけをお願いいたします